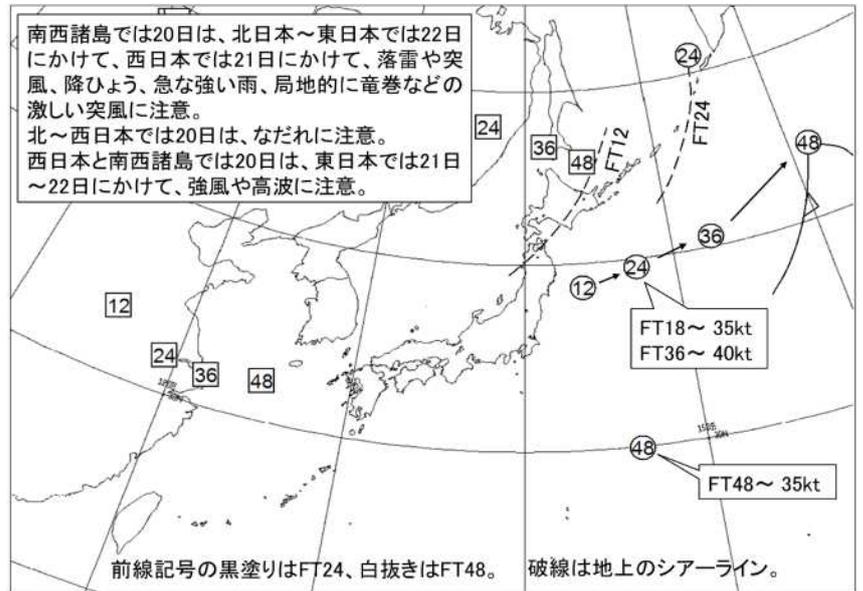


1. 実況上の着目点

- ① 北日本～日本海にかけて、シアールラインがのびている。シアールライン近傍では、1時間およそ20mmの雨量を解析、雷を検知。
- ② 房総半島沖に低気圧があって、ゆっくり北東進。また、東海道沖～南西諸島付近は、地上の気圧の谷となっている。低気圧や地上の気圧の谷に向かって、日本のはるか東にある高気圧の縁辺から下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっている所がある。関東の東では1時間およそ50mmの雨量を解析、東海道沖～南西諸島では、1時間30～50mmの雨量を解析、雷を多数検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の日本海へのびるシアールラインは、20日午前中に北日本を通過する。1項②の低気圧は、発達しながら日本の東を北東進し、20日夜には千島近海へ進む。また、1項②の気圧の谷は、20日夜にかけて日本の東へ進む。低気圧や気圧の谷及びシアールラインの周辺では、日本のはるか東にある高気圧の縁辺から下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる所がある。全国的に20日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 北日本～西日本では、20日は1項②の高気圧の後面となり、南よりの風が吹いて気温が上昇する。北～西日本の積雪の多い地域では雪解けが進むため、20日はなだれに注意。
- ③ 21日は、500hPa -30℃以下の寒気を伴った5520～5700mのトラフが西日本から日本の南へ進み、日本付近は一時的に西高東低の気圧配置となり、21日夜～22日は、大陸の高気圧がオホーツク海と東シナ海に進む。また、21日夜には小笠原諸島の北東側で低気圧が発生し、22日にかけて日本のはるか東へ東北東進する。20日夜～22日は、北～東日本に850hPa -6℃以下の寒気が流入し、北～東日本の山沿いを中心に降雪となる所がある。また、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北～東日本では21日～22日にかけて、西日本では21日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 2項①の低気圧や気圧の谷及びシアールラインの周辺、および2項③の低気圧と高気圧の間では、気圧の傾きが大きく、やや強い風や強い風が吹いて、波が高くなる所がある。西日本と南西諸島では20日は、東日本では21日～22日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]**
- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
 - ③ 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。